



新市誕生から 20 年 広がる、深める 郷土のあゆみ

新市誕生から 20 年が経過しました。この間、地震や雪害、人口減少など、さまざまな出来事を経て社会環境は変化しました。その変遷を歴史資料などからたどり、各地域のあゆみを振り返ります。

問合先 総務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

第 8 回 子育て家庭を支え、こどもたちが人間関係を身につけた保育所と幼稚園

明治から昭和初期にかけて、農村の家庭では、家事を終えた女性が、幼いこどもを背負って畑に出て働く姿が見られました。大正 13 年 7 月、北村幌達布では、小学校の始業時間を午前 7 時に早めて、こどもを受け入れるなど、地域全体で農家を支えました。また、愛国婦人会北海道支部は、農繁期託児所を昭和 3 年 6 月から栗沢村清真布に 2 か月間、昭和 4 年 9 月には北村豊正に開設し、農作業で忙しい農家を支えました。日中戦争など中国大陆での戦争が拡大した昭和 12 年には西川向、翌年からは上幌向などにも農繁期の季節保育所が開設され、戦時下で働き手が不足した農家を支えました。

戦後、保育所は児童福祉法による児童福祉施設として、農家だけでなく勤労家庭にも開かれ、人手不足が深刻になった西川町や大願町、北村北都、栗沢町由良などにも順次開設され、市街地の北本町でも、こどもを育てながら働く女性のため、地域の団体が中心となって保育所が開設されました。昭和 30 年代になると、保育所は公立のほか、社会福祉法人など地域の団体も運営するようになり、新しく団地が出来た美園町や日の出町のほか、産炭地の美流渡、万字、朝日にも開設されました。

大正 12 年、鎌田巖医師の提案により、幼児教育と地域の交流を目的とした岩見沢幼稚園が開園し、昭和 2 年にはドイツ人神父エマヌエルが、現在の天使幼稚園の前身になる天使園を開園しました。幼稚園は住民の要望に応じて市街地の各地域に広がり、幌向町や栗沢町にも開設されました。

このように、保育所は農村で働く女性を支える場として、幼稚園は幼児教育と地域交流の場として、戦争の時代を乗り越え、さまざまな家庭の子育てを支えました。そこで過ごしたこどもたちは、遊びの中で自然に規則正しい生活習慣や人との関わり方を身に付けていきました。

学校を利用した農繁期託児所
(昭和 8 年、北村豊正)



市内のできごとをお伝えします！



9 月 18 日(金)
栗沢町相撲協会主催 子ども相撲大会

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘 1 丁目 1 番 1 号
☎ 0126-23-4111 (代表) FAX 0126-23-9977



ホームページ



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

人の動き

住民基本台帳 (令和 8 年 9 月 30 日現在)

人 口	男	33,531 人	(前月比 - 36)
	女	38,274 人	(前月比 - 49)
	総数	71,805 人	(前月比 - 85)
うち外国人		593 人	(前月比 - 1)
世帯数		39,935 世帯	(前月比 - 25)

広報紙に関するご意見・ご要望は、はがき、市ホームページのフォーム、ファックス (0126-23-9977)、E メール (pr@city.iwamizawa.lg.jp)、総務部秘書課広報室へお願いします



広告

広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数 各号 2 枠 (申込多数の場合は抽選)
掲載料 各号 1 枠 22,000 円
申込期限 掲載希望号の 3 カ月前の月末
(2 月号に掲載希望の場合は 11 月 30 日(月)までに申し込み)
申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください



ID: 14518